

第1回北部作業部会(わいわいサミット)議事録

開催日時: 令和8年6月24日 18時～19時30分

開催場所: 北部公民館 集会室

グループ	A	B	C
参加者数	5名	4名	5名

- 地域福祉計画および地域福祉活動計画の策定:
事務局より、中津市における「わいわいサミット」の開催目的として、地域福祉計画と地域福祉活動計画の2つの計画策定が説明された。
- 地域福祉計画は行政による施策目標を定めた法的な計画であり、地域福祉活動計画は住民やボランティア、社会福祉協議会などが主体となり、市内15の地区ごとに具体的な目標や行動を決定する実践的な計画であると説明。これらは、高齢化や希薄化した地域関係により孤立する住民の問題に対処し、誰もが安心して暮らせる地域社会を構築するために今年度10月頃までの完了を目指して話し合いが持たれる。
- グループワークの趣旨説明と自己紹介
事務局より、作業部会の進め方として、参加者が居住地の自慢や個人的な体験を共有する形式が提案され、正解や間違いのない自由な意見交換が推奨された。参加者はテーブルごとに自己紹介を行い、居住地の魅力や自身の活動について発表することとなった。
- グループワーク①
居住地の「自慢できること」
- 歴史ある神社仏閣、史跡がある、ゆめタウンが近く買い物しやすい、北部ふれあいまつり・有償サービス・週一体操・ネットワーク協議会等地域福祉活動が盛んである、災害時避難する場所が多い、公園が多いという意見が出た。
- 他グループでは、若い人が増えている、子ども食堂がある、坂道が少ないので生活しやすいという意見が出た。
- グループワーク②
住みたい地域のイメージ
人とのコミュニケーションがとれる(挨拶や相互理解など)
年齢、障がいの有無など関係なく、誰もが避難しやすいまち。
子どもの遊び場が多いまち。

医療がしっかりしたまち。

- 近隣に住む住民の構成について

高齢者、外国人、派遣社員、医療的ケア児・者、車イス、ろう者
さらに住職、農耕者が多いことが挙げられた。

- より暮らしやすい地域にするためには

近所に自分のことを知ってもらいたい、手話をできる人を増やす。

サロンや週一体操をはじめとする公民館活動の活性化。

民生委員、自治委員による、福祉サービスの紹介
が挙げられた。

最後に各グループからの意見共有があった。

- コンビニが少ないので増やしてほしい。
- 近所でのつながり・交流の場が常にある。
- 特に親同士のコミュニケーションがとれる場の確保

子ども会や登校班のように子育て世代の交流の場所や地域全体で子どもを見守る
組織作り

- 移動販売やタクシー補助、有償サービスの拡大
- おしゃべりや交流の場を増やす

サロンの充実や、サンリブの広場のような開放されたスペース作り

- ボランティアの充実として若い世代のボランティア育成・シルバー人材の確保の両
面が必要。
- 主に障がい者、外国人との相互理解の場を増やすことが挙げられた。

手話やコミュニケーションを学ぶ場や他校区のように外国人との協働イベントの開
催。

- 医療的ケア児・者に向けた非常用電源の確保（公民館や学校、ゆめタウンなどの
各避難所）

- 今後は、各グループで出た「こんな地域にしたい」を実現するために必要な取り組
みや施策についてより掘り下げる方針。